ISSN 2435-2926

2023 年度
琉球大学島嶼地域科学研究所所報

RIIS Annual Report 2023

琉球大学
島嶼地域科学研究所
Research Institute for Islands and Sustainability
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS
〒 903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原 1 番地 | Tel. 098-895-8475 | Fax. 098-895-8308
HP. https://riis.skr.u-ryukyu.ac.jp/

目次
Index

2023 年度所報の発刊にあたって …… 1

Ⅰ．組　織 …… 4

1．組織構成図 …… 5

2．運営組織 …… 7

（1）研究所会議 …… 7

（2）所内委員会組織 …… 7

共同利用・共同研究運営委員会

協議委員会

Okinawan Journal of Island Studies 編集委員会

『島嶼地域科学』編集委員会

3．構成員 …… 9

（1）専任・併任教員 …… 9

（2）客員研究員 …… 10

Ⅱ．研究事業等 …… 12

1．RIIS 主体の研究プロジェクト・事業 …… 13

（1）2023 年度テーマ設定型共同研究 …… 13

「島嶼の記憶」

（2）琉球大学地域協働研究プロジェクト …… 14

「宮古島市狩俣地区における文化遺産に関する「協働調査」」

（3）宇流麻学術研究助成・研究プロジェクト …… 15

「近現代沖縄の「セメント瓦」に関する起源・伝播・地域変容に関する研究」

2．外来研究者との共同研究 …… 17

「分野横断型の考古学的資料解析による日本列島南西端の島嶼文化起源の解明」

3．公募型共同研究・個人型共同利用 …… 19

4．出版物 …… 21

定期刊行物（ジャーナル・学術雑誌） …… 21

『*Okinawan Journal of Island Studies*（*OJIS*），Vol.5』

学術雑誌『島嶼地域科学』 第 4 号

5．研究成果の発信と普及 …… 25

（1）研究資源データベース …… 25

（2）共通教育科目「島嶼地域科学入門」（後学期・水曜日１限） …… 26

（3）セミナー・シンポジウム等 …… 27

トークイベント「『島嶼地域科学』へのご招待ー沖縄で『島嶼地域』を科学する！」

RIIS レクチャーシリーズ

国際シンポジウム

Ⅲ．教員の研究・教育活動 …… 28

1．研究業績（専任・併任教員） …… 29

2．教育活動（専任教員） …… 37

【琉球大学における教育活動：学部教育】

【琉球大学における教育活動：大学院教育】

【琉球大学における教育活動：研究指導大学院生，研究生等の受入】

【学外における教育活動】

3．社会連携（専任教員） …… 41

【社会活動・地域貢献（学外団体委員等）】

【国際活動・国際協力等】

【所属学会】

Ⅳ．外部資金等研究費獲得状況 …… 44

1．科学研究費助成事業 …… 45

2．その他競争的資金 …… 49

3．受託研究 …… 50

Ⅴ．研究所運営 …… 52

1．研究所会議 …… 53

2．所内委員会組織 …… 56

（1）共同利用・共同研究運営委員会 …… 56

（2）協議委員会 …… 56

（3）*Okinawan Journal of Island Studies*（*OJIS*）編集委員会 …… 57

（4）『島嶼地域科学』編集委員会 …… 57

3．専任教員ミーティング …… 58

4．Academic Development …… 58

5．広報 …… 59

Ⅵ．付属資料 …… 62

1．オンライン特別公演「島嶼研究の現在」ポスター …… 63

2．個人型共同利用・公募型共同研究合同報告会ポスター …… 64

2023 年度所報の発刊にあたって

2023 年度島嶼地域科学研究所所報の発刊にあたり、ご挨拶申し上げます。

島嶼地域科学研究所（Research Institute for Islands and Sustainability）となって 6 年目を迎えたこの年、新型コロナウイルスの感染に注意しながらも、私どもは自らの研究活動を積極的に前進させてまいりました。

2020 年度以来、学外の島嶼地域研究者との連携拡充を目的とした公募型の共同利用・共同研究事業（2018 年度～）の実施を慎重に検討してきましたが、2022 年度にようやく、本研究所を拠点に沖縄における研究を個人で進める「個人型共同利用」事業および 3 人以上の研究グループによる「公募型共同研究」ともに再開することができました。これらの取組は、島嶼研究の国内外における強化と、同研究の世界的拠点としての役割を本研究所が担うことを目指すもので、本研究所の事業のなかでも非常に重要な位置づけにあります。その点でも、本研究所が担うべきミッションを果たせる環境が戻ってきたと思っておりました。2023 年度は「個人型共同利用」1 件、「公募型共同研究」1 件を採択させていただき、それぞれ精力的に研究活動を進め、研究成果を蓄積いただきました。ここに記して感謝申し上げます。

2023 年度は、本研究所の国際的な活動が本格的に再開した年度でもあります。国際島嶼学会（International Small Islands Studies Association）の前会長でマルタ大学教授の Godfrey Baldacchino 先生にお越しいただき、「島嶼研究の現在（The Status of Island Studies）」と題したご講演（2023 年 4 月 14 日）をいただきました。また、国際地理学連合（International Geographical Union）と本研究所の共催で「Islands and Oceans in Dialogue」と題したワークショップを開催し、各国から沖縄にお越しになった地理学研究者等と島嶼が抱える課題等について議論を深めました。これらの他にも、世界各国の研究者等と交流してまいりました。詳細は本所報の本文をご高覧ください。

本研究所は、2019 年度以来、英文査読誌 Okinawan Journal of Island Studies (OJIS) と和文査読誌『島嶼地域科学』を発刊してまいりました。前者は世界の著名な島嶼地域研究者をアドバイザリーボードに迎え、2023 年 4 月に第 4 号（通常号）を発刊いたしました。和文誌『島嶼地域科学』は 2023 年 6 月に第 4 号を発刊いたしました。同年度中に第 5 号の論文投稿と査読を進め、2024 年 6 月にオンラインジャーナルとして J-STAGE にて刊行されました。両誌とも電子版で公開しており、世界に向けて発信しています。

2023 年度は専任教員 5 名（教授 3 名、准教授 1 名、講師 1 名）で組織運営にあたりました。また、他学部から本研究所の研究や運営に参画している 23 名の併任教員の尽力によって、研究所の活動は支えられています。こうした全学的な協力体制によって、研究所としての実績を積み重ねることができています。

毎年度変わらず申し上げておりますが、多様で複雑な島嶼という地域を研究対象とするにあたり、トランスディシプリナリー（超学際）な研究態度が必要と考えています。複数の学問分野の理論や方法論を統合し、さらに非専門家（地域住民等）の島嶼地域における経験知や生活知をも統合していくことで、島嶼の実際と将来を追究できると考えます。多分野・多組織による連携を通して、「島嶼地域科学」の確立に向けて邁進する所存です。引き続き島嶼地域科学研究所に対するご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

2024 年 10 月 1 日

国立大学法人　琉球大学
研究推進機構　島嶼地域科学研究所
所長　波多野　想

RIIS Annual Report 2023

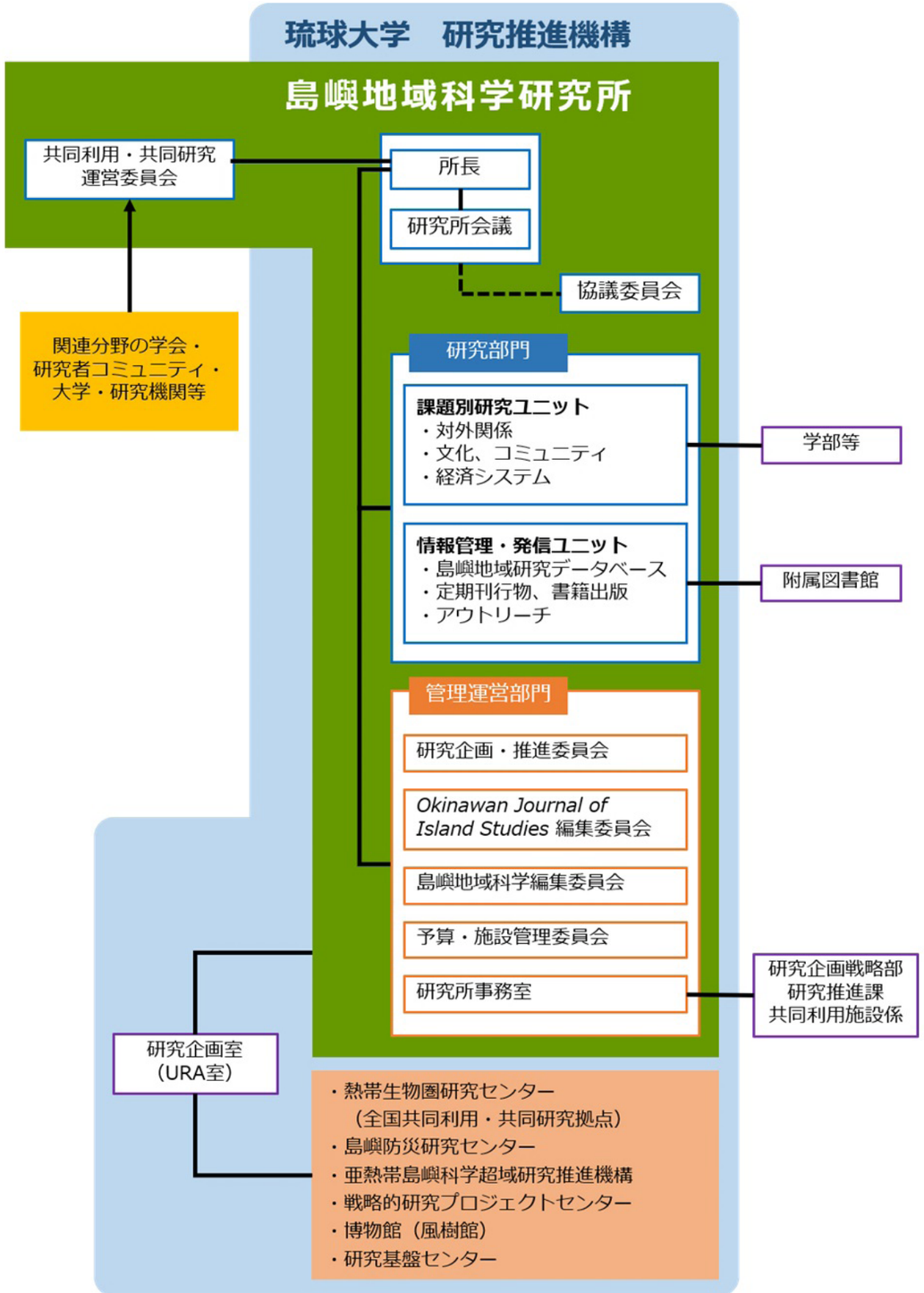
RIIS Annual Report 2023

Ⅰ．組　織

1.　組織構成図
2.　運営組織
3.　構成員

RIIS Annual Report 2023

1. 組織構成図



2. 運営組織

(1) 研究所会議

波多野 想（島嶼地域科学研究所／所長・教授） 議長
藤田 陽子（島嶼地域科学研究所／副所長・教授）
池上 大祐（国際地域創造学部／准教授）
喜納 育江（国際地域創造学部／教授）
宜野座 綾乃（島嶼地域科学研究所／准教授）
鳥山 淳（島嶼地域科学研究所／教授）
宮内 久光（国際地域創造学部／教授）
山極 海嗣（島嶼地域科学研究所／講師）

(2) 所内委員会組織

共同利用・共同研究運営委員会

波多野 想（島嶼地域科学研究所／所長・教授） 1 号委員・委員長
鳥山 淳（島嶼地域科学研究所／教授） 2 号委員
松﨑 吾朗（琉球大学熱帯生物圏研究センター／教授）3 号委員
河合 渓（鹿児島大学国際島嶼教育研究センター／副センター長・教授）4 号委員
小嶋 洋輔（名桜大学環太平洋地域文化研究所／所長・教授）4 号委員
中俣 均（法政大学／名誉教授） 4 号委員

任期：2022 年 4 月 1 日～ 2024 年 3 月 31 日

協議委員会

波多野 想（島嶼地域科学研究所／所長・教授） 1 号委員・委員長
藤田 陽子（島嶼地域科学研究所／副所長・教授） 2 号委員
宜野座 綾乃（島嶼地域科学研究所／准教授） 3 号委員
本村 真（人文社会学部／教授） 4 号委員
越智 正樹（国際地域創造学部／教授）4 号委員
山根 清宏（教育学部／准教授）4 号委員
杉浦 誠（理学部／准教授）4 号委員
小林 潤（医学部／教授）4 号委員
金城 寛（工学部／教授）4 号委員
大田 伊久雄（農学部／教授）4 号委員

任期：2022 年 4 月 1 日～ 2024 年 3 月 31 日

RIIS Annual Report 2023

Okinawan Journal of Island Studies 編集委員会

宜野座 綾乃（島嶼地域科学研究所／准教授） 編集長
藤田 陽子（島嶼地域科学研究所／教授） 編集委員
山里 絹子（国際地域創造学部／准教授） 編集委員
Timothy Kelly（名桜大学非常勤講師） 編集委員

『島嶼地域科学』編集委員会

鳥山 淳（島嶼地域科学研究所／教授） 編集長
宮内 久光（国際地域創造学部／教授） 編集委員
當山 奈那（人文社会学部／准教授）編集委員

RIIS Annual Report 2023

3. 構成員

(1) 専任・併任教員

役職 / 氏名	専門分野	所属 / 職名
所長（Director）		
波多野 想（So Hatano）	建築史学・文化遺産学・ランドスケープ研究	島嶼地域科学研究所／教授
副所長（Associate Director）		
藤田 陽子（Yoko Fujita）	環境経済学	島嶼地域科学研究所／教授
鳥山 淳（Atsushi Toriyama）	沖縄現代史	島嶼地域科学研究所／教授
専任教員（Full-time Faculty）		
宜野座 綾乃（Ayano Ginoza）	アメリカ研究・ジェンダー学・軍事主義の文化研究	島嶼地域科学研究所／准教授
山極 海嗣（Kaishi Yamagiwa）	考古学・人類学	島嶼地域科学研究所／講師
併任教員（Concurrent Faculty）		
池上 大祐（Daisuke Ikegami）	西洋史学・地域史と戦争記憶	国際地域創造学部／准教授
大島 順子（Junko Oshima）	地域・環境教育論	国際地域創造学部／准教授
大湾 知子（Tomoko Owan）	成人・がん看護学	医学部／准教授
獺口 浩一（Koichi Osoguchi）	財政学	国際地域創造学部／教授
越智 正樹（Masaki Ochi）	観光社会学・農村社会学・地域社会学	国際地域創造学部／教授
漢那 洋子（Yoko Kanna）	光化学・有機物理化学	理学部／准教授
喜納 育江（Ikue Kina）	アメリカ文学・ジェンダー研究	国際地域創造学部／教授
金城 ひろみ（Hiromi Kinjo）	中国語学	人文社会学部／准教授
小林 潤（Jun Kobayashi）	国際保健	医学部保健学科／教授
杉村 泰彦（Yasuhiko Sugimura）	農業経済学	農学部／准教授
鈴木 規之（Noriyuki Suzuki）	国際社会学	人文社会学部／教授
淡野 将太（Syota Tanno）	教育心理学	教育学部学校教育／准教授
當山 奈那（Nana Tohyama）	琉球語学	人文社会学部／准教授
内藤 重之（Shigeyuki Naito）	農業経済学	農学部／教授
野入 直美（Naomi Noiri）	社会学	人文社会学部／准教授
廣瀬 孝（Takashi Hirose）	自然地理学・水文地形学	国際地域創造学部／教授
古川 卓（Takashi Furukawa）	臨床心理学	グローバル教育支援機構／教授
宮内 久光（Hisamitsu Miyauchi）	人文地理学	国際地域創造学部／教授
宮里 厚子（Atsuko Miyazato）	ヨーロッパ文化　フランス文学	国際地域創造学部／准教授
本村 真（Makoto Motomura）	地域福祉学	人文社会学部／教授
矢野 恵美（Emi Yano）	刑法	大学院法務研究科／教授
山里 絹子（Kinuko Yamazato）	アメリカ研究	国際地域創造学部／准教授

(2) 客員研究員

氏名	所属	職名	受入教員	期間
我部 政明（Masaaki Gabe）	琉球大学	名誉教授	藤田陽子	2023/4/1-2024/3/31
狩俣 繁久（Shigehisa Karimata）	琉球大学	名誉教授	當山 奈那	2023/4/1-2024/3/31
佐藤 崇範（Takanori Satoh）	国立民族学博物館	事務補佐員	波多野 想	2023/4/1-2024/3/31
Glenda Lynna Anne Bonifacio	University of Lethbridge	Professor	宜野座 綾乃	2023/9/1-2023/10/30
Leah M. Wasil	University of Hawai‘i at Mānoa	Ph.D. Candidate	藤田 陽子	2023/4/1-2024/3/30
Aaron Sherman Hopes	Stanford University	Ph.D. Candidate	波多野 想	2023/4/1-2024/3/31
波田野 悠夏（Yuka Hatano）	東北大学 学際科学フロンティア研究所	助教	山極 海嗣	2023/8/15-2024/3/31
田村 光平（Kohei Tamura）	東北大学 東北アジア研究センター	准教授	山極 海嗣	2023/8/15-2024/3/31
Edna Constanza Aguirre Hernández	International History at the Economic Research and Teaching Center in Mexico City	Graduate studen	池上 大祐	2023/11/13-2023/12/12

RIIS Annual Report 2023

Ⅱ．研究事業等

1. RIIS 主体の研究プロジェクト・事業
2. 外来研究者との共同研究
3. 公募型共同研究・個人型共同利用
4. 出版物
5. 研究成果の発信と普及

1. RIIS 主体の研究プロジェクト・事業

(1) 2023 年度テーマ設定型共同研究

「島嶼の記憶」

事業概要

島嶼地域科学研究所は 2022 年度から毎年度に個別テーマに基づく共同研究を開始した。2023 年度は「島嶼の記憶」をテーマとして設定し、宜野座綾乃と鳥山淳が研究に取り組んだ。その概要は以下の通りである。

(1) 宜野座と鳥山の共著による査読論文を投稿し、Routledge 出版から発刊された下記の論集に掲載された。本稿では、パンデミックによる変化を踏まえた島嶼観光というフレームワークからみえる、宮古狩俣地区の共同売店「マッチャーズ」の共同体における役割についてまとめた。

論文：Ayano Ginoza, Atsushi Toriyama. 2024. "Beyond glossy tourist images: Miyako Island, Okinawa, Japan, through the stories of Machas, a small local grocery store." Edited by Godfrey Baldacchino. Archipelago Tourism Revisited Core-Periphery Dynamics after the Pandemic. Routledge.

(2) 2024 年度 NERPS (Network for Education and Research on Peace and Sustainability) 学会にて、宜野座は "'Nuchi nu Miji: Okinawa's Water of Life': Decolonizing Militarized Lands" の報告を行った。その報告では、ドキュメンタリー『命ぬ水』(琉球朝日放送 2022 年) を取り上げ、在沖米軍基地から流出する有害物室 PFAS による水源汚染と、土地の人々の取り組みについて報告した。学会報告の情報は下記の通りである。

学会報告：Ayano Ginoza. 2024. "'Nuchi nu Miji: Okinawa's Water of Life': Decolonizing Militarized Lands." Roundtable: Gender and Environmental Militarism: The Challenge of Peace and Human Security in Asia- Pacific Island Communities. NERPS (Network for Education and Research on Peace and Sustainability) Conference. Hiroshima University.

(3) 鳥山は宮古島市狩俣における戦後生活に関する記憶をテーマにして、狩俣自治会の所蔵資料の調査と宮古島市立図書館における関連資料の調査を行った。そのなかで、1960 年代における八重山のパイン工場への女性の出稼ぎ労働に注目し、同時期の『宮古毎日新聞』を閲覧して関連記事を収集するとともに、「在沖狩俣郷友そてつの会」が編集した『宮古島狩俣 100 人の物語』(2014 年) において戦後の八重山開拓とパイン工場に関連する生活記録を参照し、それらが狩俣の戦後生活においてある程度共有された経験であることを確認することができた。

(2) 琉球大学地域協働研究プロジェクト

「宮古島市狩俣地区における文化遺産に関する「協働調査」」

事業概要

本事業は、島嶼地域科学研究所がここ数年間、強固な関係を構築してきた宮古島市狩俣地区における文化遺産の現況調査と遺産保護の歴史的経緯について、地域の人々とともに「協働調査」を実施するものである。

本研究所は、2020・2022 年度に実施した日本学術振興会の委託研究を通して、同地の地域住民と協働して調査を実施し、収集した研究データを共に保存・管理・活用していくためのシステム基盤（アーカイブズ）と人的関係を構築してきた（https://u-ryukyu.repo.nii.ac.jp/records/2019734）。本事業ではその現状を前進させ、地域の文化振興を推進するために、研究者と地域住民の「協働調査」に基づき、同地域に点在する文化遺産の現況を実測調査によって把握し、さらに地域が独自に進めてきた文化遺産保護の実態について当事者へのインタビュー調査を通して明らかにした。

本事業は、学術的な調査・研究を、文化遺産に関心をもつ地域住民と「協働」で実施する点に特色がある。すなわち、研究者と地域住民を調査する側とされる側という二項対立的に定位するこれまでの研究スタンスを超克し、両者を研究データ産出における「共同作成者」と位置づけ、「協働」して研究を推進する。合わせて、収集した研究データは地域のアーカイブズ（https://riis.skr.u-ryukyu.ac.jp/resources/RC002/）に格納し、その利活用を進めた。これにより、地域課題の解決に資する研究を、研究機関と地域が「共に」実施し、学術を通した地域と大学の持続的な連携と学術成果の地域内循環構造を強化することに繋げた。

プロジェクトメンバー

波多野　想（島嶼地域科学研究所 / 教授）
山極　海嗣（島嶼地域科学研究所 / 講師）
武島　早希（島嶼地域科学研究所 / 技術補佐員）
古謝　未玲（国際地域創造学部 / 学生）
川平　舞美（国際地域創造学部 / 学生）
國仲　義隆（狩俣自治会 / 自治会長）

事業予算額

2023 年度　1,000 千円

2023 年度以降の展開

本事業の対象地である宮古島市狩俣地区とは、2023 年度以降も関係を持続し、地域課題の解決に資するプロジェクトを積極的に行っていくことを考えている。

（3）宇流麻学術研究助成・研究プロジェクト

「近現代沖縄の「セメント瓦」に関する起源・伝播・地域変容に関する研究」

事業概要

沖縄の家屋では焼き物の「赤瓦」が伝統的文化として知られるが、1930 年代以降はセメントで作られた「セメント瓦」も広く一般に普及し、現在も沖縄各地の家屋景観を特徴づける大きな要素となっている。セメント瓦はその文化的・技術的起源は日本統治下の台湾にあると考えられており、また、赤瓦以上に沖縄各地での地域性が展開した文化であることが確認されている。すなわち、セメント瓦は近現代沖縄の家屋文化、技術・流通・生活の実態や歴史を物語る重要な研究資料であると言える。しかし一方で、その研究蓄積は浅く、正確な起源や伝播・導入プロセス、そして沖縄での地域性が展開した要因や背景といった実態は殆ど解明されていない。また現代ではその生産がほぼ途絶しつつあり詳細な調査が急務となっている。そこで本事業は、沖縄のセメント瓦の起源や伝播・普及、地域変容のプロセスとメカニズムを解明することを大きな目的として、①沖縄でのセメント瓦生産発祥の地とされる名護市のセメント瓦の生産と使用・分布実態・特徴の詳細な調査、②起源地と目される台湾のセメント瓦に関するデータ収集と比較、③名護市以外の沖縄各地でのセメント瓦に関するデータ収集と比較、を実施することで土台となる基礎データ・研究成果を構築した。

プロジェクトメンバー

波多野　想（島嶼地域科学研究所 / 教授）
山極　海嗣 (島嶼地域科学研究所 / 講師)
武島　早希（島嶼地域科学研究所 / 技術補佐員）

事業予算額

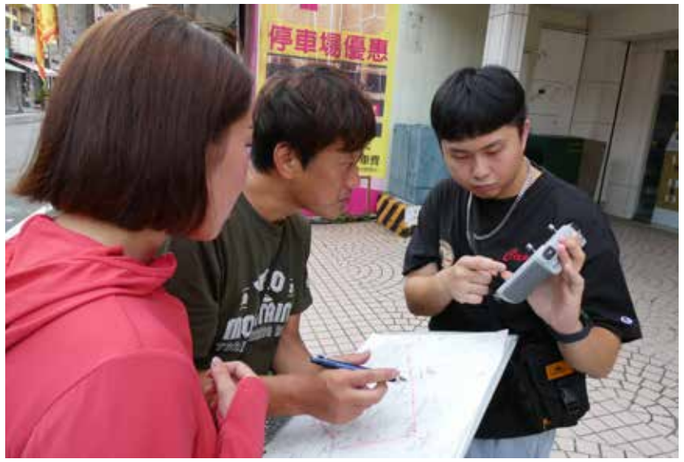
2023 年度　 260 千円

2023 年度以降の展開

沖縄のセメント瓦は、沖縄本島のみならず、石垣島、宮古島、久米島など多くの島々に伝播している。また台湾においても、全域的に残存している状況が判明しているが、やはり地域性がありそうだということまで把握することができた。今後さらに多くの地域でデータ収集を行うことで、伝播や拡散の状況がより具体的にみえてくるであろうと考えている。2023 年度以降も、本研究に研究プロジェクトの一つとして継続的に実施していく所存である。

調査風景

虎尾科技大学におけるセメント瓦研究・調査の打ち合わせ（2023 年 9 月 6 日）



台湾雲林県虎尾鎮の市街地における、虎尾科技大学との共同セメント瓦調査（2023 年 9 月 6 - 8 日）

大林のセメント瓦工場におけるインタビュー調査（2023 年 9 月 8 日）

2. 外来研究者との共同研究

「分野横断型の考古学的資料解析による日本列島南西端の島嶼文化起源の解明」

山極 海嗣（琉球大学島嶼地域科学研究所）
波田野 悠夏（東北大学学際科学フロンティア研究所・RIIS 客員研究員）
田村 光平（東北大学東北アジア研究センター・RIIS 客員研究員）

本研究課題は南琉球（宮古・八重山諸島、先島諸島）の先史時代（特に 2,800 ～ 900 年前）を対象とし、考古学的資料（遺跡などから出土した過去の文化遺物）を考古学・人類学・歯科学・科学分析・数理解析といった複数の分野の融合的な研究によって解析することで、従来の研究上の謎となっていた「南琉球の貝斧文化の発生の要因」について解明を目的として実施した。

本研究は、東北大学学際科学フロンティア研究所の波田野悠夏、および東北大学東北アジア研究センターの田村光平、琉球大学島嶼地域科学研究所の山極海嗣による共同研究であり、2023 年度笹川科学研究助成「分野横断型の物質文化解析による日本列島南西端の島嶼文化起源の解明 」（代表：波田野）、および東北大学領域創成研究プログラム「多領域解析法による日本列島南西端の島嶼文化起源の解明」（代表：波田野）の予算に基づいて実施された。本研究課題では沖縄県所蔵の考古学的資料を分析する必要性があることから、東北大学の波田野・田村の両名は 2023 年度に新たに琉球大学島嶼地域科学研究所の客員研究員となり、当研究所に滞在しつつ山極と共同で調査・研究を実施することとなった次第である。本項では本研究課題の概要と 2023 年度の活動内容について紹介する。

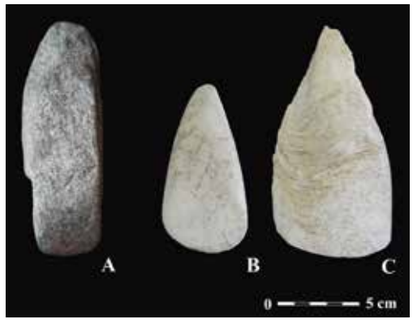
研究の概要

日本列島南西端の島嶼「南琉球（＝宮古・八重山諸島）」は、日本人の系統論を論じる上で非常に重要な論点となっている。南琉球では、考古学的には 4,800 年前～ 900 年前の先史時代に台湾やフィリピンといった南方の地域に遺伝的・文化的起源が提唱された一方で（安里 1993 など）、近年の古人骨のゲノムデータの解析からはむしろ日本列島など北方の人類集団由来の遺伝形質が確認されるなど（Robeets et al. 2021）、その起源や系統の解釈について議論が活発化している。そこで、本研究は南琉球の南方起源の根拠の一つとなっている考古学的遺物「貝斧（かいふ）」に改めて注目した。貝斧は沖縄島以北の地域では発見されておらず、東南アジア島嶼部やオセアニア島嶼部に目立つ遺物であることから、これまでは南の文化起源を示唆するものとして考えられてきた。一方、近年の調査では南琉球では石斧（せきふ）という沖縄島以北にも普遍的な石の斧も併用されていたことが分かっており、貝斧が石斧の派生として南琉球で生み出された可能性も新たに提唱されている（山極 2017）。近年の古人骨ゲノムのデータと併せると、貝斧の発生がどう解釈できるかは日本列島南西端の島嶼地域における人類起源・系統の解釈を左右する非常に重要な問題と言えるだろう。これを受け、本研究では、南琉球の貝斧と石斧の関係性を調べることで「貝と石の斧はどのような関係性にあったのか」を検証し、「南琉球での貝斧の発生と定着の理由」についてアプローチすることを目的とする。特にこの研究では歯科学や数理科学・考古学を横断した研究を構築することで多角的に「当時の道具製作・利用」を解析し、南方起源を検証したいと考えている。

RIIS Annual Report 2023

研究の手法と 2023 年度の活動

本研究では、南琉球の約 2,800 年前～ 900 年前の遺跡で出土した考古学的遺物である貝斧と石斧（右図）を分野融合的な手法を用いて多角的に比較解析し、貝斧と石斧の時間的な推移や関係性を調べ、地質環境データや既存の考古学的な地域比較データなども踏まえ、「南琉球での貝斧の発生と定着の理由」を検証することとした。具体的な手法としては、通常の考古学的なk観察解析に加えて、歯科印象材を用いて実際の考古学的遺物のレプリカを作成して行う貝斧と石斧の製作痕・使用痕分析（レプリカ法）や、楕円フーリエ解析や 3D 計測解析を用いた定量的な形態解析を用いた。分析対象としては、2023 年度は主に既存の発掘調査で得られた資料を対象とし、宮古島市教育委員会や沖縄県立埋蔵文化財センター協力のもと、県内所蔵資料を中心に分析を行った（下図）。



南琉球出土の石斧（A）と貝斧（B・C）（山極 2020 より）

本分析手法は新規構築であることから、2023 年度は様々なテストや試行錯誤にも時間を費やしたが、歯科印象材を用いたレプリカ法では、琉球大学研究基盤統括センター設置の実体顕微鏡やデジタルマイクロスコープの分析等を組み合わせることで定性・定量解析が可能となり、新しい効果的な分析手段を構築した。また、楕円フーリエ解析や 3D 計測解析についても解析データを着実に蓄積しており、現在比較分析結果を精査しつつ研究を進めているところである。加えて、本研究を土台の一つとして、2024 年度から科研費の研究基盤経費（B）（代表：山極）の獲得に至った。弊所における客員研究員との共同研究がより大きな研究展開に結び付いた事例であり、2024 年度以降も本共同研究を発展的に推進していきたいと考えている。

2023 年度の調査・解析の様子

引用文献

Robbeets, M. et al. 2021. Triangulation supports agricultural spread of the Transeurasian languages. *Nature,* **volume 599: 616–621.**
安里嗣淳（1993）「南琉球の原史世界」、比嘉政夫（編）『海洋文化論』環中国海の民俗と文化第一巻：61-84 凱風社。
山極海嗣（2017）「先史南琉球から見た東南アジア島嶼地域の「貝斧利用文化」が北上した可能性 」『東南アジア考古学』37 号：19-34。
山極海嗣（2020）「オセアニアの「貝斧」と「石斧」―人の行動の柔軟性と多様性」印東道子・秋道智彌（編）「ヒトはなぜ海を越えたのか―オセアニア考古学の挑戦―」、雄山閣：171-179。

RIIS Annual Report 2023

3.　公募型共同研究・個人型共同利用

島嶼地域科学研究所では、島嶼地域の研究に取り組む研究者とそのアイデアを広く募り、多様な島嶼地域研究を展開するための共同利用・共同研究を推進している。2016 年度に公募型共同研究（複数名による共同研究、国内および海外）を開始し、加えて 2018 度より個人型共同利用（個人による調査研究）を進めてきた。これらの取組は島嶼研究の国内外における強化と、同研究の世界的拠点としての役割を本研究所が担うことを目指すものである。2020 年度は世界的な新型コロナウイルス感染拡大状況を鑑み募集を見合わせたが、それまでに、公募型共同研究総計 26 件（継続を含む）、個人型共同利用総計 5 件を採択してきた。2021 年度において、新型コロナウイルス感染状況は予断を許すものではなかったものの、学外研究者に本研究所を拠点に研究活動に従事していただく個人型共同利用（個人による調査研究）の実施は可能と判断し、その募集のみ再開した。その結果、3 件の研究課題を採択した。さらに、2022 年度に 1 件、2023 年度に 1 件の研究課題を採択し、継続的な事業実施を進めてきた。

公募型共同研究に関しては、2022 年度に再開の目処がたったことから、1 件の研究課題を採択した。2023 年度も同様に、1 件の課題を採択した。

2023 年度採択課題

公募型共同研究（＊は研究代表者）

「北大東島における台湾人・韓国人の記憶－ 1960 ～ 70 年代の季節労働者を中心に－」

原　智弘＊（帝京大学）、山﨑　直也（帝京大学）、菅野　敦志（共立女子大学）

個人型共同利用

「1960 ～ 70 年代のアジア・太平洋島嶼地域における米軍基地の連関性」

元山　仁士郎（一橋大学大学院）

4.　出版物

定期刊行物（ジャーナル・学術雑誌）

『*Okinawan Journal of Island Studies* (*OJIS*), Vol.5』

本誌は、人文・社会科学を中心とした国内外の島嶼や島嶼性に着目した英語による学術論文と書評を募集している。専門分野ごとに国内外の査読者による厳密な査読の後、優れた論文を掲載することで、島嶼地域科学の学術分野への国際的な寄与を目指している。フォーラムでは、インタビュー、研究ノート、詩や散文も掲載する。また、より多くの読者との議論の場を形成する目的で、完全オープンアクセスにより公開した。

第 5 号は、通常公募に加え、ゲストエディターに サンフランシスコ州立大学の **Wesley Ueunten** 教授、**Leora Kava** 講師、**Ponipate Rokolekutu** 講師をお迎えし、スペシャルテーマ **“Our Sharpest Tools: unsettling Empire from Islands and Ocean”** の投稿原稿を査読し掲載した。ゲストエディターのご尽力もあり、本号は、研究論文 5 本、フォーラム 3 本、書評 1 本、Editorial notes2 本の合計 11 本の投稿から構成された内容となっている。

目次は以下の通りである。なお、投稿募集や投稿規定については島嶼地域科学研究所のホームページに掲載している（**http://riis.skr.u-ryukyu.ac.jp/publication/ojis**）。

OJIS Volume 5

Regular Section

Editorial Note

“Editor’s Note”

Ayano ginoza

Papers

“The Mermaid, the Wheat Ear & Idealised Otherness: The Transformation of an Aquapelagic Symbol into a Japanese Bakery Logo”

Philip Hayward and Felicity Greenland

“Understanding the Diving Tourism Industry in Tulamben Using the Scuba Diving Tourism System Framework“

Sultan Kurnia, Carolin Funck, and Wulandari Retnaningtiyas

RIIS Annual Report 2023

Book review

“Some More Islands: A Journal of Linguistics and Art. Number 2.”

Ayano Ginoza

Special Section

“Our Sharpest Tools: unsettling Empire from Islands and Ocean”

Guest Editors: Wesley Ueunten, Leora Kava, Ponipate Rokolekutu, San Francisco State University

Editorial Note

“Editors’ Note”

Leora Kava, Ponipate Rokolekutu, Wesley Ueunten

Papers

“The Equal Distribution Policy: Does it Generate Economic Advancement for iTaukei?”

Sevanaia Sakai

“Interrogating British Colonial Benevolence and the Annexation of the Fijian Islands”

Ponipate Rokolekutu

“Weaving a Net For Monstrous Fishes: Notes on the Poetics of Demilitarization in Hawai‘i”

Kyle Kajihiro

Forum Essays

“Talking Stories in the Kīpuka of Hui Mālama i ke Ala ‘Ūlili: Reflections from a Kānaka ‘Ōiwi and CHamoru Exchange”

No‘eau Peralto, Zita Pangelinan, Victoria-Lola Leon Guerrero, Makana Kushi, Ha’åni Lucia Falo San Nicolas, Kevin Escudero

“Water Heals and Grows Indigeneity”

Risako Sakai

“On Failure, Silence and the Kingdom: Interview of Sho Yamagusiku”

Sho Yamagusuku, Wesley Ueunten

学術雑誌『島嶼地域科学』第 4 号

『島嶼地域科学』は島嶼地域科学研究所が発行する査読付きのオープンアクセスの学術雑誌である（J-stage にて公開）。本誌では島嶼に関する様々な研究についての論文や研究ノート、資料紹介といった原稿を幅広く募集し、1 年に 1 回刊行している（掲載言語は日本語）。投稿募集の案内、および投稿規定などについては島嶼地域科学研究所のホームページに掲載している（http://riis.skr.u-ryukyu.ac.jp/publication/jrsi）。

2023 年度は、2023 年 6 月に第4号を発行した。目次は以下の通りである。本号については Web 上で閲覧が可能である（https://riis.skr.u-ryukyu.ac.jp/publication/jrsi/jrsi04）。

『島嶼地域科学』第4号

研究論文

加藤 潤三・前村 奈央佳

「地方移住における移住者の適応および地元住民の受容とソーシャルキャピタルとの関連
－島嶼地域沖縄における地方移住」

研究ノート

福井 弘教

「沖縄におけるギャンブルの機会と背景に関する検討－文化と議会議事録に焦点をあてて」

落合　いずみ

「ブヌン語タキバカ方言のアクセントについて」

RIIS Annual Report 2023

5.　研究成果の発信と普及

（1）研究資源データベース

島嶼地域科学研究所では、2018 年度より、島嶼地域科学を推進する過程で設定する重点課題を軸に、①学術情報・資料の収集・整理を行い研究資源化すること、②それらをデジタル化・データベース化し、ウェブ等で公開することで、多様な研究者からのアクセスを容易にすること、③「研究資源」及びそこから新たに得られた知見を地域社会に還元すること、を目的として、ウェブサイトで「研究資源データベース」の公開を始めた。2023 年度も引き続き公開を継続している。

「地域の知・宮古島市狩俣地区版」は、2020 ～ 2022 年度に実施した「対話型アーカイブズによる新たな「島嶼の知」の創出に基づく島嶼地域科学の体系化」プロジェクト（日本学術振興会『課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業』（領域開拓プログラム））において開発したもので、調査地において取得した研究データを、地域住民を含む広い範囲で公開し、地域課題の解決に資する研究資源データベースのあり方を模索しているものである。

「沖縄関係外交資料コレクション」は本研究所が長年運営している研究資源データベースである。今後もさらに多くの資料を格納すべく、作業を進めている。

（2）共通教育科目「島嶼地域科学入門」（後学期・水曜日1限）

島嶼地域科学研究所では各年度の後学期に共通教育科目の授業を提供している。2023 年度は新型コロナウイルスの感染拡大も終息を見せ始めたことから対面授業を再開したほか、本研究所が発刊した学術書籍『島嶼地域科学を拓く：問い直す環境・社会・歴史の実践』（ミネルヴァ書房）を教科書に授業内容の再編を行った。授業内容は以下の通りである。

授業概要

琉球列島などの小規模の島々からなる島嶼地域は、大陸部の地域や大国の視点からは周縁や辺境の存在として位置づけられる傾向にある。一方で、島嶼にフォーカスした様々な研究によって、島嶼地域ならではの環境や人間文化の多様性、あるいはそれに基づく独自の社会的課題や将来性も明らかになってきている。近年の多様な視点や価値観の共存を必要とする社会において、島の社会もまた島嶼固有の特性の理解に基づく自律的かつ持続的な社会の展開が求められている。本授業ではこうした島嶼地域での社会の成り立ちや現状・課題を理解するための基礎的な知識を様々な研究分野から習得し、「島嶼」の科学的な理解に基づいて島嶼社会の将来を考え・創造する力を獲得することを目的とする。

授業内容

第 01 回　鳥山　淳「ガイダンス」

「第 1 テーマ：島嶼の多様性とネットワーク」

第 02 回：鳥山 淳「第 1 テーマの概要説明＆近現代の沖縄と太平洋島嶼

第 03 回：宜野座 綾乃「太平洋島嶼におけるジェンダー」

第 04 回：山里 絹子「島嶼地域における人の移動とコミュニティ形成」

第 05 回：小グループでのディスカッション

「第 2 テーマ：島嶼における様々なリスクとそのマネジメント」

第 06 回：藤田 陽子「第 2 テーマの概要説明＆島嶼の環境と経済」

第 07 回：當山 裕子「島嶼における地域の力と防災」

第 08 回：斉藤 美加「島嶼の感染症対策ー行動変容に果たした、科学と互助ー」（※オンライン開講）

第 09 回：小グループでのディスカッション

「第 3 テーマ：島嶼の歴史と文化を記録する」

第 10 回：鳥山 淳「第 3 テーマの概要説明＆戦争体験と記録作成」

第 11 回：山極 海嗣「島嶼の歴史から発掘する海域ネットワーク」

第 12 回：波多野 想「島嶼の文化遺産」

第 13 回：小グループでのディスカッション

「総括」

第 14 回：波多野 想「島嶼地域課題への科学的アプローチ」

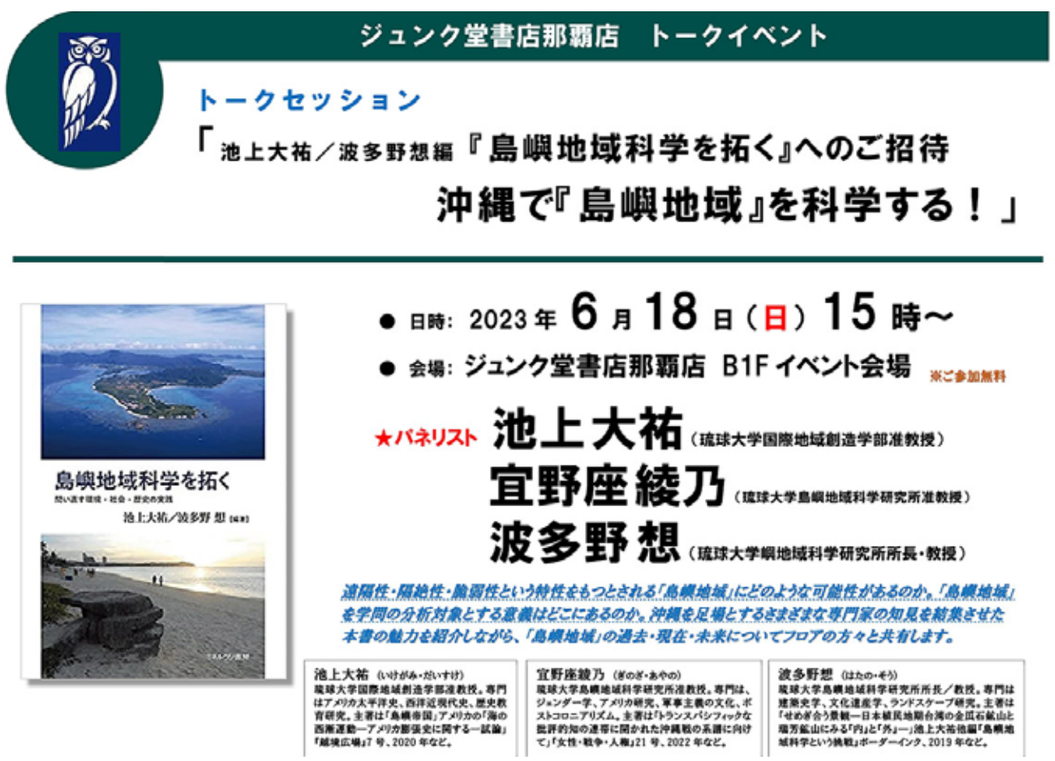
第 15 回：小グループでのディスカッション

（3）セミナー・シンポジウム等

トークイベント「『島嶼地域科学』へのご招待－沖縄で『島嶼地域』を科学する！」

池上大祐／波多野想編『島嶼地域科学を拓く』（ミネルヴァ書房）の発刊を記念して、島嶼地域が抱える課題にいかにアプローチするかをわかりやすく伝えるためのトークイベントを開催した。

日時：2031 年 6 月 18 日（日）15：00 ～ 16：00
パネリスト：池上大祐（島嶼地域科学研究所 / 併任教員）、宜野座綾乃（島嶼地域科学研究所）、波多野想（島嶼地域科学研究所）
タイトル：『島嶼地域科学』へのご招待－沖縄で『島嶼地域』を科学する！



RIIS Annual Report 2023

RIIS レクチャーシリーズ

島嶼地域研究や関連する分野に携わる外部講師を招聘しレクチャーシリーズを開催した。

日時：2023 年 4 月 14 日（金）14:00 ～ 15:00
講師：Godfrey Baldacchino 氏（University of Malta 教授、
International Small Island Studies Association 前会長）
タイトル：The Status of Island Studies（島嶼研究の現在）
会場：ハイブリッド（対面：文系総合研究棟 6 階島嶼地域科学研究所会議室、オンライン Zoom）

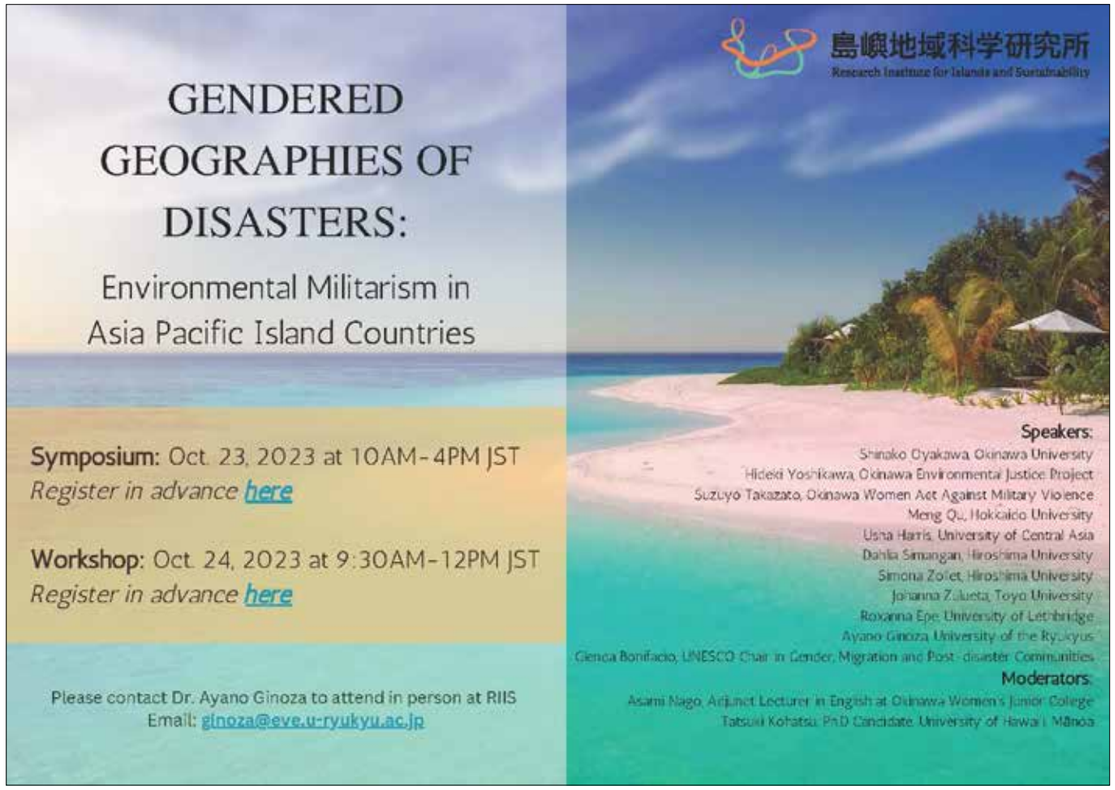
日時：2023 年 6 月 28 日（水）14:40 ～ 16:10
講師：Aaron Hopes 氏（Stanford 大学人類学部博士課程）
タイトル：沖縄そして琉球諸島で学ぶ多種「マルチスピーシーズ」政治人類学
会場：ハイブリッド（対面：文系総合研究棟 6 階島嶼地域科学研究所会議室、オンライン Zoom）

日時：2023 年 10 月 18 日（水）14:40 ～ 16:40
講師：Leah Wasil 氏（RIIS 客員研究員 , University of Hawaii 大学院）
タイトル：Multivocal Monuments: Shuri Castle as Case Study for Research in Reconstructing the Past
（モニュメントの多声性：過去をどのように復元するか－首里城を事例に）
会場：ハイブリッド（対面：文系総合研究棟 6 階島嶼地域科学研究所会議室、オンライン Zoom）

日時：2023 年 10 月 19 日（木）14:40 ～ 16:10
講師：Glenda Bonifacio 氏（University of Lethbridge 教授）
タイトル：Gender and Transformational Approaches in Island Studies For Global Impact
会場：オンライン Zoom

国際シンポジウム

日時：2023 年 10 月 23 日（月）(10 月 24 日にワークショップも開催）
タイトル：Gendered Geographies of Disasters: Environmental Militarism in Asia Pacific Island Countries
登壇者：Shinako Oyakawa (Okinawa University), Hideki Yoshikawa (Okinawa Environmental Justice Project), Suzuyo Takazato (Okinawa Women Act Against Military Violence), Meng Qu (Hokkaido University), Usha Harris (University of Central Asia), Dahlia Simangan (Hiroshima University), Simona Zollet (Hiroshima University), Johanna Zulueta (Toyo University), Roxanna Epe (University of Lethbridge), Ayano Ginoza (University of the Ryukyus), Glenda Bonifacio (UNESCO Chair in Gender, Migration and Post-disaster Communities).
司会：Asami Nago (Adjunct Lecturer in English at Okinawa Women’s Junior College),
Tatsuki Kohatsu (Ph.D Candidate, University of Hawai‘i, Manoa)
事業：JSPS 外国人招へい研究（短期）事業（代表：宜野座 綾乃）



RIIS Annual Report 2023

RIIS Annual Report 2023

Ⅲ．教員の研究・教育活動

1. 研究業績（専任・併任教員）
2. 教育活動（専任教員）
3. 社会連携

1. 研究業績（専任・併任教員）

＊日英併記、50 音順

【原著論文】

1. 池上大祐（2023）「アメリカ太平洋地域における軍事と環境―「グローカル軍事公害史」の構築に向けて―」『戦争社会学研究』第7巻、pp.29-52。（査読なし［依頼論文］）
2. 池上大祐（2024）「教員養成を意識した歴史学講義科目の実践分析―琉球大学における2022年度開講科目「歴史総合」を事例として－」『地理歴史人類学研究』第 13 号、pp.129 ～ 152。（査読あり）
3. 四本幸夫・越智正樹・森重昌之（2023）「コロナ禍後を見据えた観光まちづくりの展望と課題―コロナ禍における観光まちづくり全国調査の中間報告⑵」『観光学術学会第 12 回大会発表要旨集』、pp.76-77。（査読なし）
4. 獺口浩一・与座由登・外間雅・渡嘉敷翼・座波華乃（2023）「DEA/Malmquist 生産性指数を用いた沖縄県内製造業の効率性評価」『経済研究』（琉球大学）、第 104 号、1-12 頁。
5. 沖縄振興開発金融公庫調査部地域連携情報室（徳松安史・池原雄太）・獺口浩一・當山香鈴 他（2023）「県内都市公園の現況と課題」『公庫レポート』（沖縄振興開発金融公庫）、第 185 号、1-46 頁。
6. 鈴木規之（2024）「東北タイの開発と市民社会形成のダイナミズム―2つの農村の比較から（2）」『人間科学』琉球大学人文社会学部紀要、第 44 号、pp.89-131
7. 淡野　将太・中尾　達馬・廣瀬　等・城間　吉貴 (2023). 教員養成課程における入学前教育の実施と評価　琉球大学教育学部紀要 , 103, 9-15.（査読なし）
8. 淡野　将太・浦内　桜・越中　康治 (2023). 小学校教師の宿題研究に対する認識　琉球大学教育学部紀要 , 103, 1-7.（査読なし）
9. 當山奈那（2014）「与論方言のとりたて表現―＜極端 - 反極端＞＜限定 - 反限定＞と関わるとりたて助辞―」『琉球アジア文化論集』10 号、pp.1-38。（査読なし）
10. 當山奈那（2014）「うるま市浜比嘉島方言の動詞活用・存在動詞活用資料」『シマジマのしまくとぅば』3 号、pp.95-115。（査読なし）
11. 鳥山淳　2024 年 3 月、「農業・農村から再考する沖縄現代史研究の論点」日本農業史学会『農業史研究』第 58 号、pp.3-16。（査読あり）
12. 内藤重之（2023）「花き卸売市場における取引改革の経緯とその影響－大阪鶴見花き地方卸売市場の事例を中心として－『農業市場研究』第 32 巻第2号、pp.26-34。（査読あり）
13. 内藤重之・杉村泰彦・矢野泉（2024）「卸売市場制度改革による卸売業者への影響とその事業展開―中央卸売市場の青果・花き卸売業者を対象として―『農業市場研究』第 32 巻第4号、pp.25-35。（査読あり）
14. 野入直美（2023）「沖縄のアメラジアンーダブルをめぐる課題、歴史と現在」『部落解放研究』30 号、pp. 113-134。（査読あり）
15. 宮内久光（2024）「既存の備品を活用した簡易電子黒板システムの構築による社会科教育法の授業改善」『琉球大学大学教育センター報』第 26 号、pp.30-44。（査読なし）

RIIS Annual Report 2023

【書籍】

1. 大湾知子 (2023)「臓器の移植に関する法律（平成 9 年制定）」『新体系看護学全書 健康支援と社会保障制度❹ 関係法規』、メヂカルフレンド社、pp124-126。（査読なし）
2. 大湾知子 (2023)「ハンセン病問題の解決の促進に関する法律」『新体系看護学全書 健康支援と社会保障制度❹ 関係法規』、メヂカルフレンド社、pp 126-127。（査読なし）
3. 大湾知子 (2023)「歯科口腔保健の推進に関する法律」『新体系看護学全書 健康支援と社会保障制度❹ 関係法規』、メヂカルフレンド社、pp 127-128。（査読なし）
4. 大湾知子 (2023)「アレルギー疾患対策基本法（平成 26 年制定）」『新体系看護学全書 健康支援と社会保障制度❹ 関係法規』、メヂカルフレンド社、pp 128-129。（査読なし）
5. 大湾知子 (2023)「アルコール健康障害対策基本法（平成 25 年制定）」『新体系看護学全書 健康支援と社会保障制度❹ 関係法規』、メヂカルフレンド社、pp129-130。（査読なし）
6. 大湾知子 (2023)「ギャンブル等依存症対策基本法（平成 30 年制定）」『新体系看護学全書 健康支援と社会保障制度❹ 関係法規』、メヂカルフレンド社、pp130-131。（査読なし）
7. 大湾知子 (2023)「自殺対策基本法（平成 18 年制定）」『新体系看護学全書 健康支援と社会保障制度❹ 関係法規』、メヂカルフレンド社、pp 131-133。（査読なし）
8. 大湾知子 (2023)「自殺対策の総合的かつ効果的な実施に資するための調査研究及びその成果の活用等の推進に関する法律（令和元年制定）」『新体系看護学全書 健康支援と社会保障制度・ 関係法規』、メヂカルフレンド社、pp 133。（査読なし）
9. 大湾知子 (2023)「その他の疾病予防・健康増進関連法律」『新体系看護学全書 健康支援と社会保障制度❹ 関係法規』、メヂカルフレンド社、pp 133-134。（査読なし）
10. 越智正樹・石黒侑介（2024）『DMO の社会的役割を考える』琉球大学出版会 .
11. 野入直美（編著）（2024）『引揚エリートと戦後沖縄の再編』不二出版

【その他（資料、解説、雑文、翻訳、新聞・雑誌への投稿等）】

1. 池上大祐 (2024)「(新刊紹介) 歴史学研究会編『「歴史総合」をつむぐ―新しい歴史実践へのいざない』」『西洋史学論集』第 61 号、pp.108 ～ 112。
2. 大湾知子 (2023)「4 年ぶり実施の 1・3 研修～とかしき島～」『琉球大学医学部保健学科同窓会会報』第 23 号、p4, 令和 5 年 7 月 18 日。
3. 大湾知子 (2023)「知は光、知は力」『キャンパスニライ』放送大学沖縄学習センター 106 号、pp2。
4. 大湾知子、山下明美、新垣薫、大湾朝成、冨田なおり、長嶺ふじ子、木村成子、赤嶺ゆかり、當山悦子、伊波義一、高良奈津子、長嶺覚子 (2023)「沖縄県活動 ing」『コンチネンス Now』6 月号、pp2。
5. 大湾知子 (2023)「応援メッセーの紹介」『https://readyfor.jp/projects/ryukyu-application』令和 5 年 5 月 19 日。
6. 大湾知子 (2023)「排尿ケアの理論と実践」、放送大学沖縄学習センター、pp1-16。
7. 大湾知子 (2023)「怒り解消のアンガーマネジメント」放送大学沖縄学習センター、pp1-9。
8. 大湾知子 (2023)「実習前学内演習アサーティブコミュニケーション－、アンガーマネジメント」沖縄県看護協会、pp1-8。
9. 大湾知子「医療関係者向け　自己導尿指導のポイント」（株）大塚製薬工場、pp1-4、2024 年 2 月。
10. 大湾知子「向氏玉川門中系図を改訂 36 年ぶり」『琉球新報』2024 年 2 月 28 日。
11. 獺口浩一・岡崎聡（2024）「数理データサイエンス教育に関する基本方針」に関連した科目調査の結果報告」『大学教育センター報』（琉球大学）、第 26 号、88-92 頁。
12. 獺口浩一・佐久本晟至 他（2023）「宜野湾市人口ビジョン」（宜野湾市役所）1-37 頁。
13. 獺口浩一・与座由登・外間雅・渡嘉敷翼・座波華乃（2023）「DEA/Malmquist 生産性指数を用いた 沖縄県内製造業の効率性評価」（概要版）、『沖縄県ものづくり振興計画（令和5年4月）』（沖縄県）55-68 頁。
14. 獺口浩一（2023）「沖縄経済・財政の現状と行方―構造的問題とその改善を考えるー（「 公認会計士の日」「沖縄会創立 50 周年」記念講演会 ）」『日本公認会計士協会沖縄会 50 年史』（日本公認会計士協会沖縄会）38-47 頁。
15. 越智正樹 (2023)「〈都市―農村〉の問い直しから生活と地域の担い手の問い直しへ」（村研年報合評『日本農村社会の行方―〈都市―農村〉を問い直す』）『村落社会研究ジャーナル』第 59 号、pp.25-29。（合評論文）
16. 小谷一明・喜納育江（司会 村上克尚、コメント 大野亮司・高榮蘭・内藤千珠子）「インタビュー：エコクリティシズムとポストコロニアリズムの交差点」『日本近代文学』109 号、2023 年、pp.150-161
17. Naputi, T, Marina Karides, Ayano Ginoza, Evangelia Papoutsaki. “Editorial Note.” Okinawan Journal of Island Studies, Vol. 4.2.
18. 當山奈那（2013）「島ことばの散歩道 64「二つの「おいしい」」」南海日日新聞、2023 年 12 月 6 日
19. 當山奈那（2013）「言葉を引き継ぎたかった思いから、琉球列島の言語再活性化に取り組む」esse-sense 、インターネットメディア、2023 年 6 月 5 日
20. 當山奈那（2013）「島ことばの散歩道 65「カワセミの方言」」南海日日新聞、2023 年 1 月 10 日
21. 鳥山淳（2024）「書評『大学で学ぶ沖縄の歴史』（吉川弘文館、2023 年）－「現代」の構成と記述を中心に－」沖縄国際大学社会文化学会『社会文化研究』第 14 巻第 1 号、歴史評論』第 875 号、pp.53-56.（査読なし）
22. 波多野想・佐藤崇範他（2023）「「対話型アーカイブズによる新たな『島嶼の知』の創出に基づく島嶼地域科学の体系化」研究報告書」島嶼地域科学研究所、https://doi.org/10.24564/0002019734
23. 廣瀬　孝（2023）「石灰岩地域の水」『沖縄地理学会会報』第 79 号、pp.8-9.（査読なし、学会シンポジウム発表要旨）
24. 宮内久光（2023）「64．名護」平岡昭利（編）『よみたくなる「地図」地方都市編②』、海青社、pp.132-133。（査読なし）
25. 山里絹子．吉原真里著『親愛なるレニー：レナード・バーンスタインと戦後日本の物語』『沖縄タイムス』2023 年 5 月 8 日（新刊紹介）
26. 野入直美 (2023)「沖縄のアメラジアンから多文化共生を考える」『日立グローバルソサエティ―レビュー』1 巻、pp.1-3.（査読なし）

RIIS Annual Report 2023

【招待講演】

1. 池上大祐「アメリカ太平洋地域における軍事と環境」グローバル地中海地域研究同志社拠点「多文化都市と共生の危機」研究班主催、京都府・京都市、2023 年 10 月 27 日
2. 池上大祐「沖縄からのグローカルヒストリー実践―「島嶼地域」の視点から」福岡県歴史教育者協議会 2 月例会、福岡県・福岡市、2024 年 2 月 11 日
3. 宜野座綾乃 .「ジェンダー、LGBTQIA+,『I（私）』」未来をつくる@読谷、沖縄・読谷村、2024 年 3 月 9日
4. Suzuki, N. Keynote Speech, “Social and Cultural Adaptation Under A Shrinking Japanese Society”, The 16th UDRU National Graduate Research Conference “Innovative Research for Future Challenges for All”, Udonthani, Thailand, Dec 9, 2023.
5. 野入直美「移民と教育」日本移民学会開催校企画シンポジウム「世界のウチナーンチュ」を考える―広がるウチナーネットワークの課題と可能性 - 第二部、神田外語大学、2023 年 6 月 25 日
6. 野入直美「台湾―沖縄引揚者の外地就学と戦後就労」国立台湾大学主催 国際シンポジウム「続・海域アジアの暮らしと移動」 琉球大学、2023 年 7 月 29 日
7. 波多野想「礦域論―對日治時期金瓜石礦山的區域性研究」第一屆礦山學國際論壇、台湾・新北市、2023 年 10 月 27 日
8. 山極海嗣「島嶼地域の人類史研究における領域横断研究の可能性 」FRIS/TI-FRIS Retreat 2023、宮城県蔵王、2023 年 7 月 21 日

RIIS Annual Report 2023

【学会発表】

1. Daisuke, I. “Militarized Environments” and Resilience in Guam. The17th International Conference on Small Island Cultures (ISIC-2023), Miyajima, Hiroshima, June 21, 2023.
2. 池上大祐「新高等学校学習指導要領を意識した歴史学授業実践―琉球大学における授業科目「歴史総合」の内容構成を素材として」高大連携歴史教育研究会第5部学習会、オンライン、2023 年 12 月 18 日。
3. 四本幸夫・越智正樹・森重昌之「コロナ禍後を見据えた観光まちづくりの展望と課題―コロナ禍における観光まちづくり全国調査の中間報告 (2)」第 12 回観光学術学会大会、 立教大学、 2023 年 7 月 9 日。
4. Ginoza, A. “Nuchi nu Miji: Okinawa’s Water of Life”：Decolonizing Militarized Lands.” Network for Education and Research on Peace and Sustainability, Hiroshima, March 7, 2023.
5. Suzuki, N., Tanapat J., Area Studies and Research on Development and Civil Society, Thailand 3rd Annual Conference on Anthropology and Sociology, Faculty of Social Sciences, Chiang Mai University, Chiang Mai , Thailand, Nov 3, 2023.
6. Suzuki, N., Phonemany V., The Formation of Cooperative Network for bottom-up Approach in Rural Community Development of Lao PDR, 5th Seminar on Education for Community Development in Southeast Asia, Vientiane, Lao P.D.R., Oct 31, 2023.
7. 鈴木規之、タナパット・チャンディッタウォン「タイの開発と市民社会形成のプロセスープラチャーコム（住民組織）のダイナミズムー」、日本タイ学会 2023 年度研究会、東京、2023 年 7 月 8 日
8. 淡野 将太・浦内 桜・越中 康治・Denson Thomas「小学校における宿題と成績に関する縦断研究」日本心理学会第 87 回大会 2023 年 9 月 15 日 - 17 日。
9. 當山奈那「与論方言の可能構文における与格主語」第1回琉球諸語理論言語学研究会、沖縄・西原、2024 年 2 月 17 日
10. 當山奈那「琉球諸語の程度副詞」沖縄言語研究センター定例研究会、沖縄・西原、2023 年 12 月 9 日
11. 當山奈那「与論方言の可能表現」沖縄言語研究センター定例研究会、沖縄・西原、2023 年 4 月 8 日
12. 内藤重之・杉村泰彦・矢野泉「卸売市場制度改革による取引規制の緩和に伴う卸売業者の事業展開」日本農業市場学会 2023 年度大会、三重・津、2023 年 7 月9日
13. 野入直美「引揚げと軍雇用―沖縄在外事実調査の分析 (1)」日本社会学会、品川大学、10 月 8 日
14. 野入直美「奄美籍の琉球政府副主席・泉有平と沖縄の「自立」」沖縄社会学会奄美大会シンポジウム、奄美市民交流会館、2023 年 11 月 18 日
15. 平良渉 , 山極海嗣 , 青山洋昭 , 昆 健志「科学の目でみた首里城瓦の時代変化 」首里城再興学術ネットワークシンポジウム 2023 2023 年 10 月 29 日
16. 廣瀬 孝「石灰岩地域の水」 2023 年度沖縄地理学会 第 5 回石灰岩地域シンポジウム：石灰岩地域の特性と人々との関わり、沖縄・宜野湾、2023 年 7 月 29 日
17. 山里絹子「ディアスポラと沖縄戦の継承」『「世界のウチナーンチュ」を考える―広がるウチナーネットワークの課題と可能性』日本移民学会第 33 回年次大会開催校企画シンポジウム、 千葉・神田外語大学、2023 年 6 月 25 日

【その他の口頭発表】

1. **池上大祐**「（コメント）高校と大学における『私の授業理論』の異同」高大連携歴史教育研究会第9回大会第 2 部会パネル「歴史教師はいかに目標の実現に向けた「私の授業理論」を作っていくか」、東京都・池袋、2023 年 8 月 6 日
2. 漢那洋子「理系女子・理系男子の世界～その進路・キャリア、そして生活や文化」（出前講座）、沖縄県立具志川高等学校（沖縄県・うるま市）、2023 年 6 月 7 日
3. 漢那洋子「理系女子・理系男子の世界～その進路・キャリア、そして生活や文化」（出前講座）、鹿児島県立沖永良部高等学校（鹿児島県・大島郡知名町）、2023 年 8 月 25 日
4. 漢那洋子「理系女子・理系男子の世界～その進路・キャリア、そして生活や文化」琉球大学キャンパスツアー（京都府立山城高等学校）ミニ講義、琉球大学 50 周年記念館（沖縄県・中頭郡西原町）、2023 年 10 月 4 日
5. 漢那洋子、末吉敏恭、山岡賢、福本晃造、清水千草「パネルディスカッション『理系選択から続く道』」（女子中高生の理系進路選択支援プログラム「親子で考えよう、理系への道！」）、沖縄県立博物館・美術館（おきみゅー）（沖縄県・那覇市）、2023 年 11 月 4 日
6. 漢那洋子、沖縄県委託事業 令和 5 年度 子供科学技術人材育成事業（未就学児・低学年向けボトムアップ型体験プログラム）「色が変わるフィルムで紫外線を捕まえよう！（実験科学講座）」、あらしろ児童クラブ（沖縄県・八重瀬町）、2023 年 11 月 13 日
7. 漢那洋子、沖縄県委託事業 令和 5 年度 子供科学技術人材育成事業（未就学児・低学年向けボトムアップ型体験プログラム）「色が変わるフィルムで紫外線を捕まえよう！（実験科学講座）」、合同会社 CMYK（沖縄県・沖縄市）、2023 年 12 月 23 日
8. 漢那洋子、沖縄県委託事業 令和 5 年度 子供科学技術人材育成事業（未就学児・低学年向けボトムアップ型体験プログラム）「色が変わるフィルムで紫外線を捕まえよう！（実験科学講座）」、ゆかるっ子空学童（沖縄県・南城市）、2023 年 12 月 26 日
9. 照屋健太、漢那洋子、沖縄県委託事業 令和 5 年度 子供科学技術人材育成事業（中学生を対象としたボトムアップ型体験プログラム）「植物と光化学の不思議！（実験科学講座）」、琉球大学理系複合棟（沖縄県・中頭郡西原町）、2024 年 1 月 21 日
10. 漢那洋子、末吉敏恭、山岡賢、金城紀与史、福本晃造「パネルディスカッション『理系選択から続く道』」（女子中高生の理系進路選択支援プログラム「親子で考えよう、理系への道！」）、宮古島市未来創造センター（沖縄県・宮古島市）、2024 年 3 月 9 日
11. Suzuki, N., The Processes of Civil Society Formations and Development in Thailand, International Seminar on Development and Civil Society in Thailand and Lao PDR, Supported by Japan Society for the Promotion of Science (JSPS), University of the Ryukyus, Okinawa, Nov 17, 2023.

【表彰・受賞等】

1. 学長賞 . 2023 年度 . 琉球大学学生サークル「琉大レインボー」のボランティア活動（顧問）

2. 教育活動（専任教員）

【琉球大学における教育活動：学部教育】

担当者	授業科目等	開講学部等	備考
波多野 想	地域・国際実践力演習Ⅲ	国際地域創造学部	
波多野 想	ヘリテージツーリズム論・基礎	国際地域創造学部	
波多野 想	島嶼観光入門	国際地域創造学部	オムニバス授業
波多野 想	地域・国際実践力演習Ⅳ	国際地域創造学部	
波多野 想	卒業研究	国際地域創造学部	
波多野 想	島嶼地域科学入門	共通教育科目	オムニバス授業
鳥山 淳	島嶼地域科学入門	共通教育科目	オムニバス授業
鳥山 淳	平和論	共通教育科目	オムニバス授業
藤田 陽子	環境経済学	国際地域創造学部経済学プログラム・法文学部総合社会システム学科・農学部合併授業	昼間主クラス
藤田 陽子	環境経済学	際地域創造学部経済学プログラム・法文学部総合社会システム学科・農学部　合併授業	夜間主クラス
藤田 陽子	島嶼社会経済入門	国際地域創造学部	オムニバス授業
藤田 陽子	島嶼地域科学入門	共通教育科目	オムニバス授業
藤田 陽子	総合環境学概論	共通教育科目	オムニバス授業
宜野座 綾乃	ジェンダー学とインターセクショナリティ	共通教育科目	
宜野座 綾乃	島嶼地域科学入門	共通教育科目	オムニバス授業
宜野座 綾乃	琉球学入門	共通教育科目	オムニバス授業
山極 海嗣	島嶼地域科学入門	共通教育科目	オムニバス授業
山極 海嗣	琉球学入門	共通教育科目	オムニバス授業

RIIS Annual Report 2023

【琉球大学における教育活動：大学院教育】

担当者	授業科目等	開講学部等	備考
波多野 想	島嶼文化資源論 A	地域共創研究科	
波多野 想	島嶼文化資源論 B	地域共創研究科	
波多野 想	地域共創特別演習Ⅲ	地域共創研究科	
波多野 想	地域共創特別演習Ⅳ	地域共創研究科	
鳥山 淳	総合演習	人文社会科学研究科	専攻主任（責任者）
鳥山 淳	国際言語文化特別演習Ⅲ	人文社会科学研究科	
鳥山 淳	国際言語文化特別演習Ⅳ	人文社会科学研究科	
鳥山 淳	近現代沖縄政治社会史基礎特論	人文社会科学研究科	
鳥山 淳	近現代沖縄政治社会史応用特論	人文社会科学研究科	
藤田 陽子	島嶼環境経済論 A・B	地域共創研究科	
藤田 陽子	環境経済学特論 B	地域共創研究科	
藤田 陽子	沖縄・島嶼と地域共創	地域共創研究科	科目責任者 オムニバス授業
藤田 陽子	文化・環境基礎	地域共創研究科	科目責任者 オムニバス授業
藤田 陽子	研究リテラシー	地域共創研究科	オムニバス授業
藤田 陽子	SDG sと地域共創	地域共創研究科	オムニバス授業
藤田 陽子	比較地域文化総合演習Ⅰ～Ⅳ	人文社会科学研究科博士後期課程	課程担当教員全員によるチームティーチング
宜野座 綾乃	沖縄における文化	地域共創研究科	オムニバス授業
宜野座 綾乃	ネイティブの表象文化論	地域共創研究科	
山極 海嗣	島嶼人類学 A	地域共創研究科	
山極 海嗣	島嶼人類学 B	地域共創研究科	
山極 海嗣	沖縄・島嶼と地域共創	地域共創研究科	オムニバス授業

【琉球大学における教育活動：研究指導大学院生，研究生等の受入】

担当者	種別・課程など （研究生の場合は最終学歴）	研究テーマ	備考
波多野 想	大学院生・修士課程（研究指導）	斎場御嶽の「遺産化」プロセスに関する研究	留学生
鳥山 淳	大学院生・修士課程（研究指導）	戦後沖縄の労働史と基地労働者の大量解雇	
鳥山 淳	大学院生・修士課程（研究指導）	沖縄戦に動員された男子学徒の記録編纂のあゆみ	
藤田 陽子	大学院生・修士課程（副指導教員）	ITC 産業育成モデルの設計と構築（仮）	

RIIS Annual Report 2023

【学外における教育活動】

担当者	授業科目等	開講機関・学部等	備考
鳥山 淳	沖縄平和論	沖縄国際大学・総合文化学部	
藤田 陽子	環境と経済	沖縄大学・経法商学部	
宜野座 綾乃	英語購読 VI	沖縄キリスト教学院大学	
山極 海嗣	アジア考古学	沖縄国際大学・総合文化学部	

3. 社会連携（専任教員）

【社会活動・地域貢献（学外団体委員等）】

氏名	活動内容	活動期間
波多野 想	沖縄総合事務局開発建設部「景観委員会」（委員、事業景観アドバイザー）	2023 年度
波多野 想	沖縄県「沖縄県景観評価委員会」（委員）	2023 年度
波多野 想	沖縄県「景観形成審議会」（委員）	2023 年度
波多野 想	浦添市「浦添市景観まちづくり審議会」（委員）	2023 年度
波多野 想	沖縄都市モノレール「沖縄都市モノレール車体利用広告審査会」（委員）	2023 年度
波多野 想	「名勝アマミクヌイ「越来グスク」整備委員会」（副委員長）	2023 年度
波多野 想	南城市「南城佐敷・玉城 IC 周辺地区整備事業パートナー選定等委員会」（委員）	2023 年度
鳥山 淳	沖縄県史現代編専門部会	通年
鳥山 淳	沖縄県史編集委員会	通年
鳥山 淳	名護市史戦後生活誌編専門部会	通年
藤田 陽子	日本島嶼学会　理事	2019 年 11 月～
藤田 陽子	日本地域学会　理事	2021 年 1 月～
藤田 陽子	沖縄県公害審査会委員	2022 年 8 月～
藤田 陽子	沖縄県国土利用計画審議会委員	2022 年 8 月～
藤田 陽子	環境省　サンゴ礁生態系保全行動計画フォローアップ会議専門家・同評価指標検討会委員	2023 年 10 月～2024 年 3 月
藤田 陽子	日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員・卓越研究員候補者選考委員会書面審査及び国際事業委員会書面審査員・書面評価員	2023 年　～2024 年 6 月
藤田 陽子	那覇市指定管理者選定委員会　委員長	2023 年～
宜野座 綾乃	アレン奨学会顧問	通年
宜野座 綾乃	「女性・戦争・人権」学会　運営委員	通年
山極 海嗣	東南アジア考古学会　編集委員	2019 年度～
山極 海嗣	人間文化機構　機関連携研究員	2022 年度～

RIIS Annual Report 2023

【国際活動・国際協力等】

氏名	活動内容	活動期間
宜野座 綾乃	国際小島嶼学会理事	2022 年度～
宜野座 綾乃	Folk, Knowledge, Place アドバイザリーボード	2022 年度～
宜野座 綾乃	Okinawan Journal of Island Studies 編集長	2019 年度～
宜野座 綾乃	JICA 母子保健強化研修講師	2020 年度～

【所属学会】

氏名	学会名
波多野 想	日本島嶼学会
鳥山 淳	日本平和学会
鳥山 淳	日本平和学会沖縄地区研究会
鳥山 淳	同時代史学会
鳥山 淳	琉球沖縄歴史学会
藤田 陽子	日本島嶼学会
藤田 陽子	日本地域学会
藤田 陽子	環境経済・政策学会
藤田 陽子	日本リスク学会
宜野座 綾乃	「女性・戦争・人権」学会
宜野座 綾乃	American Studies Association
宜野座 綾乃	Native American and Indigenous Studies Association
山極 海嗣	東南アジア考古学会
山極 海嗣	沖縄考古学会
山極 海嗣	日本オセアニア学会
山極 海嗣	物質文化学会

RIIS Annual Report 2023

Ⅳ．外部資金等研究費獲得状況

1. 科学研究費助成事業
2. その他の競争的資金
3. 受託研究

1. 科学研究費助成事業

【研究代表】

研究種目	代表者	期間
研究科題名		
基盤研究（B）	鳥山 淳	2020 ～ 2023 年度
復帰前後の沖縄における基地と開発をめぐる住民運動に関する実証的研究と資料整備		
基盤研究（C）	波多野 想	2020 ～ 2024 年度
日本植民地下台湾における金瓜石鉱山の開発と事業圏域の拡大		
基盤研究（C）	宜野座　綾乃	2019 ～ 2023 年度
女性琉球舞踊指導者のアメリカ社会におけるエイジェンシーの分析		
基盤研究（C）	宮内 久光	2018 ～ 2023 年度
離島地域における生活インフラの状況と多機能化による集落機能維持に関する研究		
基盤研究（C）	淡野 将太	2021 ～ 2023 年度
小学校における宿題の教育的効果の縦断的検討と宿題を用いた学習指導の提案		
基盤研究（C）	内藤 重之	2021 ～ 2023 年度
卸売市場制度「大改革」が卸売市場の流通機能と園芸産地・生産者へ与える影響の解明		
基盤研究（C）	野入 直美	2022 ～ 2024 年度
米軍統治下の沖縄における奄美籍者の公職追放―「琉球人」から排除された者たちの移動		
基盤研究（C）	當山 奈那	2023 ～ 2025 年度
沖縄島内の諸言語における教材開発と実践		
基盤研究（C）	廣瀬 孝	2019 ～ 2023 年度
南西諸島におけるカルスト地形の形成プロセス：野外計測と野外実験からのアプローチ		
若手研究	山里 絹子	2022 ～ 2024 年度
オキナワ・ディアスポラにおける戦争の記憶継承に関する基礎的研究		

RIIS Annual Report 2023

研究種目	代表者	期間
研究科題名		
国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（B））	鈴木 規之	2020 ～ 2024 年度
タイの開発と市民社会形成のプロセス－プラチャーコム（住民組織）のダイナミズム		
外国人招へい研究者	宜野座　綾乃	2023 年度
島嶼共同体のジェンダーとパワー：沖縄におけるトランスローカリティと移民世帯 (BONIFACIO, G. T., University of Lethbridge, CANADA)		

RIIS Annual Report 2023

【研究分担】

研究種目	代表者	分担者	期間
研究科題名			
基盤研究（A）	狩俣　繁久	當山 奈那	2022 ～ 2024 年度
文法記述と比較研究による琉球諸語と九州方言の歴史言語学的研究			
基盤研究（B）	新井 祥穂	宮内 久光	2021 ～ 2024 年度
コロナ禍後の農業・農村の動態変化に関する比較研究			
基盤研究（C）	崎原　正志	當山 奈那	2021 ～ 2024 年度
消滅の危機に瀕した琉球諸語沖縄本部町の伝統・新設集落の方言の記述文法			
基盤研究（C）	秋林 こずえ	宜野座　綾乃	2022 ～ 2025 年度
復冷戦と性暴力―北東アジアの長期駐留軍とインターセクショナルフェミニズム			
基盤研究（C）	村岡敬明	池上 大祐	2023 ～ 2028 年度
基地公害をめぐる米国と地域住民の対応―「グローカル環境正義」論の構築に向けて―			
基盤研究（C）	淡野 将太	淡野 将太	2019 ～ 2023 年度
攻撃行動に対する小学生の善悪判断の発達的変化：仮説的推論と道徳感情帰属に着目して			
基盤研究（C）	山野 ケン陽次郎	山極 海嗣	2022 ～ 2024 年度
完新世におけるミクロネシアの人類拡散の考古学的再検証－貝製品を中心に－			
基盤研究（C）	羽田 麻美	廣瀬 孝	2019 ～ 2023 年度
南西諸島におけるカルスト地形の形成プロセス：野外計測と野外実験からのアプローチ			
国際共同研究加速基金（海外連携研究）	奥野 充	山極 海嗣	2023 ～ 2025 年度
フィリピン，バタン島の考古遺跡から見たイラヤ火山の噴火史と台湾とルソン島の交流史			

2. その他競争的資金

担当者	支出機関	期間
研究科題名		
波多野 想・山極 海嗣	公益信託宇流麻学術研究助成基金	2023 年度
近現代沖縄の「セメント瓦」に関する起源・伝播・地域変容に関する研究		
波多野 想・山極 海嗣	琉球大学・地域協働プロジェクト推進事業経費	2023 年度
宮古島市狩俣地区における文化遺産に関する「協働調査」		
山極 海嗣	琉球大学・科研費獲得再チャレンジ経費	2023 年度
先史南琉球地域の文化・集団起源に関する網羅的地域比較研究		

RIIS Annual Report 2023

3. 受託研究

担当者	支出機関	期間
研究科題名		
鈴木 規之 （コーディネーター）	独立行政法人日本学術振興会・研究拠点形成事業 （B. アジア・アフリカ学術基盤形成型）	2022 ～ 2024 年度
ラオスにおけるボトムアップ型農村コミュニティ開発のための協力ネットワークの形成		
内藤 重之	伊江村	2023 年 7 月 25 日～ 2024 年 2 月 29 日
伊江村における島らっきょう生産者の現状分析ならびに伊江村産農産物に関する顧客層の分析および販売アプローチの検討		
瀨口 浩一	沖縄振興開発金融公庫	2023 年 10 月 23 日 ～ 2024 年 2 月 29 日
住宅確保に関する現状と課題について		
瀨口 浩一	宜野湾市役所	2023 年 8 月 31 日～ 2024 年 3 月 31 日
宜野湾市人口ビジョンに関する調査・検討と改訂		

RIIS Annual Report 2023

Ⅴ．研究所運営

1. 研究所会議
2. 所内委員会組織
3. 協議委員会
4. 共同利用・共同研究運営委員会
5. 専任教員ミーティング
6. 広報

1. 研究所会議

月	日	会議名	摘要
4	12	第 1 回　研究所会議	・ 議題 1．2023 年度公募型共同研究公募要領（案）および個人型共同利用公募要領（案）について ・ 議題 2．研究所会議規程の改訂について ・ 議題 3．客員研究員の期間延長申請について ・ 協議 1．2023 年度の年度計画等事業方針について（案） ・ 協議 2.『島嶼地域科学を拓く』(ミネルヴァ書房、2022 年 3 月 30 日出版）の紹介イベントについて ・ 報告 1．2023 年度予算について ・ 報告 2．Okinawan Journal of Island Studies および『島嶼地域科学』両編集委員会の構成について ・ 報告 3. Okinawan Journal of Island Studies 第 4 号の発刊について（進捗） ・ 報告 4．『島嶼地域科学』第 4 号の発刊について（進捗） ・ 報告 5．RIIS × IGU 座談会について ・ 報告 6．Baldacchino 教授の来沖について ・ 連絡 1．スタッフの勤務体制について ・ 連絡 2．次回研究所会議について
5	10	第 2 回　研究所会議	・ 協議 1．2022 年度の所報の作成について（協力依頼） ・ 協議 2．大学における組織再編について ・ 報告 1．2023 年度公募型共同研究公募要領（案）および個人型共同利用公募要領（案）の共同利用・共同研究運営委員会における審議の結果について ・ 報告 2．Baldacchino 教授の来沖について ・ 報告 3．2023 年度共通教育科目「島嶼地域科学入門」の実施について ・ 報告 4.『島嶼地域科学を拓く』(ミネルヴァ書房、2022 年 3 月 30 日出版）の紹介イベントについて ・ 連絡 1．次回研究所会議について
6	14	第 3 回　研究所会議	・ 議題 1．2022 年度島嶼地域科学研究所決算（案）について ・ 議題 2．2023 年度島嶼地域科学研究所予算（案）について ・ 議題 3．「琉球大学島嶼地域科学研究所共同利用・共同研究推進基本方針」の改定について ・ 議題 4．2023 年度公募型共同研究／個人型共同利用の予備審査について ・ 報告 1.『島嶼地域科学を拓く』(ミネルヴァ書房、2022 年 3 月 30 日出版）の紹介イベントについて ・ 報告 2．OJIS 第 4 号の出版について ・ 報告 3．2023 年度研究所運営の体制について ・ 連絡 1．次回研究所会議について
7	7	臨時　研究所会議	・ 議題．大学における組織再編について

RIIS Annual Report 2023

月	日	会議名	摘要
7	12	第4回　研究所会議	・ 議題 1．客員研究員の受入れ申請について ・ 議題 2．Bonifacio 先生の客員滞在期間変更依頼について ・ 協議 1．令和 6 年度文部科学省教育研究組織改革分（組織整備）概算要求に伴う組織再編本部案について ・ 協議 2．9 月研究所会議の不開催について ・ 報告 1．『島嶼地域科学』第 4 号の発刊について ・ 連絡 1．次回研究所会議について
10	11	第 5 回　研究所会議	・ 議題 1．客員研究員の受入れ申請について ・ 議題 2．2022 年度所報（案）について ・ 報告 1．客員研究員（Glenda Lynna Anne Tibe Bonifacio 先生）の着任について ・ 報告 2. 島嶼地域科学研究所提供共通教育科目「島嶼地域科学入門」の開講について ・ 報告 3．令和 6 年度概算要求教育研究組織改革分の結果について ・ 報告 4．シンポジウム／ワークショップについて ・ 連絡 1．次回研究所会議について
11	8	第 6 回　研究所会議	・ 議題 1．2024 年度併任教員継続意思確認について ・ 報告 1．令和 5 年度「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」の審査結果ついて ・ 報告 2．令和 5 年度第 4 回 研究推進会議（11 月 7 日開催）について ・ 報告 3．2022 年度所報の公開について ・ 報告 4．査読誌の編集状況について ・ 報告 5．シンポジウム／ワークショップ：GENDERED GEOGRAPHIES OF DISASTERS:Environmental Militarism in Asia Pacific Island Countries について ・ 報告 6．OJIS 編集補佐の着任について ・ 報告 7．客員研究員の来沖について（11/13 ～） ・ 連絡 1．次回研究所会議について
12	13	第 7 回　研究所会議	・ 協議 1．令和 7 年度概算要求に向けた作業について ・ 協議 2．海外連携研究への申請について ・ 報告 1．共同利用共同研究合同報告会の開催について ・ 報告 2．査読誌の編集委員会規定の整備について ・ 報告 3．共同利用・共同研究拠点の新規認定募集について ・ 連絡 1．次回研究所会議について
1	10	第 8 回　研究所会議	・ 議題 1．令和 6 年度客員研究員の申請について ・ 協議 1．令和 7 年度概算要求に向けた作業について ・ 協議 2．海外連携研究への申請について ・ 報告 1．共同利用・共同研究拠点の新規認定募集について ・ 報告 2．共同利用共同研究合同報告会の開催について ・ 報告 3．査読誌の編集委員会規定の整備について ・ 連絡 1．次回研究所会議について

月	日	会議名	摘要
2	14	第 9 回　研究所会議	・ 議題 1．2024 年度併任教員（案）について ・ 議題 2．令和 6 年度客員研究員の申請について ・ 協議 1．令和 6 年度共同利用共同研究事業について ・ 報告 1．共同利用共同研究合同報告会の開催について ・ 報告 2．次号定期刊行物の出版準備状況について ・ 連絡 1．次回研究所会議について
3	13	第 10 回　研究所会議	・ 議題 1．令和 6 年度共同利用・共同研究事業について ・ 議題 2．客員研究員受入期間の延長について ・ 報告 1．次号定期刊行物の出版準備状況について ・ 連絡 1．今年度研究所会議についての謝辞

RIIS Annual Report 2023

2.　所内委員会組織

（1）共同利用・共同研究運営委員会

月	日	会議名	摘要
4	21-28	第 1 回 共同利用・共同研究運営委員会 （メール会議）	・ 議題．2023 年度公募型共同研究公募要領（案）および個人型共同利用公募要領（案）について
6	19	第 2 回 共同利用・共同研究運営委員会	・ 議題 1．2023 年度琉球大学島嶼地域科学研究所公募型共同研究審査について ・ 議題 2．2023 年度琉球大学島嶼地域科学研究所個人型共同利用審査について
3	9	第 3 回 共同利用・共同研究運営委員会	・ 議題 1．共同利用・共同研究の実績について ・ 議題 2．令和 5 年度島嶼地域科学研究所の活動について ・ 議題 3．令和 6 年度個人型共同利用・公募型共同研究（案）について

（2）協議委員会

開催なし

(3) *Okinawan Journal of Island Studies* (*OJIS*) 編集委員会

月	日	会議名	摘要
6	8	第 1 回 OJIS 編集委員会会議	1. 2023 年度の体制について 2. OJIS 第 4 号出版のご報告 3. 第 5 号の投稿状況と査読者選定 4. 第 5 号スペシャル号プロポーザル承認可否
9	21	第 2 回 OJIS 編集委員会会議 オンライン会議	1. Vol.5 の査読結果と進捗 2. 編集補佐の面談のご報告 3. 3. Vol.5 スペシャル号の進捗
9	27	第 3 回 OJIS 編集委員会会議 メール会議	1. 別誌にて出版済みの原稿を、OJIS スペシャル号において再掲載の可否
1	22	第 4 回 OJIS 編集委員会会	1. OJIS 編集委員会規定（案）の審議 2. OJIS 現編集委員長の任期について 3. その他

(4)『島嶼地域科学』編集委員会

月	日	会議名	摘要
4	18	【電子編集委員会】	議題 1. 原稿の採否について
6	30	『島嶼地域科学　第4号』J-STAGE 公開	
8	31	【電子編集委員会】 （～ 9 月 2 日）	議題 1. 投稿募集の告知について
11	28	【電子編集委員会】	議題 1. エントリー期限と投稿期限の延長について
1	11-13	【電子編集委員会】	議題 1. 原稿投稿状況について 議題2. 査読依頼について

RIIS Annual Report 2023

3. 専任教員ミーティング

月	日	会議名
4	5	第 1 回　専任教員ミーティング
4	19	第 2 回　専任教員ミーティング
5	17	第 3 回　専任教員ミーティング
5	31	第 4 回　専任教員ミーティング
6	7	第 5 回　専任教員ミーティング
7	5	第 6 回　専任教員ミーティング
7	19	第 7 回　専任教員ミーティング
9	20	第 8 回　専任教員ミーティング
10	4	第 9 回　専任教員ミーティング
11	1	第 10 回　専任教員ミーティング
11	15	第 11 回　専任教員ミーティング
11	29	第 12 回　専任教員ミーティング
12	6	第 13 回　専任教員ミーティング
12	20	第 14 回　専任教員ミーティング
1	17	第 15 回　専任教員ミーティング
1	24	第 16 回　専任教員ミーティング
1	31	第 17 回　専任教員ミーティング
2	7	第 18 回　専任教員ミーティング
2	28	第 19 回　専任教員ミーティング
3	6	第 20 回　専任教員ミーティング

4. Academic Development

月	日	担当教員	テーマ
4	26	全員	テーマ設定型共同研究の内容および担当者について
5	24	全員	組織再編に対して

5. 広報

島嶼地域科学研究所ではWebサイトおよびSNSを通して、研究所の取り組みや活動、各種イベント、データベース等、最新情報からこれまでに蓄積された研究成果まで幅広い情報を広報している。

島嶼地域科学研究所 Web サイト https://riis.skr.u-ryukyu.ac.jp/

島嶼地域科学研究所に関する情報や告知を発信する基本的な媒体として活用している。本サイトでは研究所に関する情報の他に学術データベースも担っており、こうしたコンテンツへのアクセスも多い。2023 年度は 10 件のお知らせを発信したほか、データベース「地域の知・宮古島市狩俣地区版」を新たに開設した。

島嶼地域科学研究所公式フェイスブック https://www.facebook.com/RIIS.u.ryukyus/

島嶼地域科学研究所ウェブサイトで公開した情報をベースに情報を更新している。海外の方向けに、日本語と英語の両方で情報を発信している。2023 年度は、10件を新規投稿した。フォロワーは 115 人（2024 年 8 月現在）で、フォロワー数は増加傾向にある。

島嶼地域科学研究所公式ツイッター（現エックス） https://twitter.com/Riis_Ryukyu

島嶼地域科学研究所ウェブサイトで公開された情報を基に国内外へ向けて日英両言語で情報を発信している。ツイッター（現エックス）ではインタラクティブ性も考慮して、ちょっとした研究活動などの情報を発信するなど実験的な活動にも取り組んでいる。2023 年度は 14 件の情報を投稿した。フォロワー数は 125 人（2023 年 8 月現在）となっており、Facebook よりも増加傾向にある。

RIIS Annual Report 2023

RIIS Annual Report 2023

Ⅵ. 付属資料

1. オンライン特別公演「島嶼研究の現在」ポスター
2. 個人型共同利用・公募型共同研究合同報告会ポスター

1. オンライン特別公演「島嶼研究の現在」ポスター

国立大学法人 琉球大学 島嶼地域科学研究所 主催

INTERNATIONAL
SMALL ISLANDS STUDIES ASSOCIATION
（国際島嶼学会）
前会長 Godfrey Baldacchino先生
（マルタ大学教授）
オンライン特別講演

島嶼研究の現在

日時：2023年4月14日（金）14：00～ 15：00（日本時間）

開催方法：Zoom ※参加費無料、事前登録必須

申し込み締切は2023年4月13日（木）正午（日本時間）です。
本講演会の使用言語は、英語のみです。

参加をご希望の方：
下記の情報をメールにてお知らせください
ZOOMによる視聴方法については、参加登録後にこちらからお送りする登録確認メールをご覧ください。
連絡先：RIIS@RIIS.SKR.U-RYUKYU.AC.JP（担当：波多野）

お名前（必須）：
メールアドレス（必須）：
ご所属先：

RIIS
Research Institute for Islands and Sustainability
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS
1 SENBARU,NISHIHARA,OKINAWA,903-0213,JAPAN

RIIS Annual Report 2023

2. 個人型共同利用・公募型共同研究合同報告会ポスター

2023年度琉球大学島嶼地域科学研究所

個人型共同利用・公募型共同研究合同報告会

琉球大学島嶼地域科学研究所は、沖縄やアジア太平洋地域を含む世界の島嶼地域の自律的・持続的発展に資する学際的共同研究の推進を使命としています。本共同利用・共同研究事業は、この目的を達成するために、国内外の島嶼地域研究者との学術ネットワーク拠点の活動の一環として実施するものです。
本報告会では、2023年度に採択された研究課題とその成果を共有し、これからの島嶼地域科学について議論します。

プログラム

開会挨拶	木暮 一啓(琉球大学 理事・副学長)
事業説明	波多野 想 (島嶼地域科学研究所 所長)
報告①	公募型共同研究 原 智弘 (帝京大学外国語学部 教授) 山崎 直也 (帝京大学外国語学部 教授) 菅野 敦志 (共立女子大学国際学部 教授) 北大東島における台湾人・韓国人の記憶 ー1960~70 年代の季節労働者を中心にー
報告②	個人型共同利用 元山 仁士郎 (一橋大学大学院 博士課程) 1960~70年代のアジア・太平洋島嶼地域における米軍基地の連関性
総 括	共同利用・共同研究運営委員会委員
閉会挨拶	波多野 想 (島嶼地域科学研究所 所長)

参加方法

ご参加を希望される方は、下記に掲載しておりますGoogle申し込みフォーム(QRコード)より、参加申し込み手続きをお願いします。
QRコードを読み取っていただき、必要事項をご入力いただければ参加申し込み完了となります。

申し込みいただいた方々には、後日担当者よりZOOM URLを共有させていただきます。

本報告会はZOOMによるオンライン開催となります。

開催日時
2024
3/9 土
13:00～14:00

お問合せ
国立大学法人 琉球大学島嶼地域科学研究所
電話番号 :098-895-8475 （担当：武島）
メールアドレス：riis@riis.skr.u-ryukyu.ac.jp
サイト：https://riis.skr.u-ryukyu.ac.jp/

RIIS

RIIS

2023 年度　島嶼地域科学研究所　所報
RIIS Annual Report 2023

2024 年 10 月 1 日　発行

編集・発行
国立大学法人 琉球大学
研究推進機構 島嶼地域科学研究所
Research Institute for Islands and Sustainability, University of the Ryukyus

〒 903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原 1
1, Senbaru, Nishihara, Okinawa, Japan, 903-0213
Tel. 098-895-8475　Fax. 098-895-8308
HP. https://riis.skr.u-ryukyu.ac.jp/